

1.KES コネクタの特徴

世界が認めた最先端の接合金物による驚異的な強度と自由度

在来軸組工法の最大の弱点と言われる接合部分。KES 構法はその最大の弱点をオリジナルの接合金物を用いることで徹底的に強化。柱や梁を大きく削ることなく接合部を緊結し、接合強度を飛躍的に高めました。他の接合金物には見られない独自の「引っかけ」部分と「梁受け」部分により強度を高め、施行性を高めています。



木造建築最大の弱点を排除し、木材の強度を最大に活かします

在来軸組工法では「仕口」や「継ぎ手」の加工が必要となり、構造的に重要な柱や梁を削り取る加工が一般的でした。そのため、木材が本来持っている強度を弱めてしまい、木造建築の弱点の一つとなっていました。KES 構法はオリジナルの接合金物を使用することでそれを解決。柱や梁の欠損部を最小限におさえ、接合部を頑丈に緊結し、在来軸組工法に比べ接合部強度を飛躍的に高めることに成功しました。



在来軸組工法→「仕口」や「継ぎ手」の加工が必要なため欠損部が多くなります。

KES 構法→わずかなスリットとボルトの貫通穴を開けるのみで欠損部分が少なく済みます。

2.KES 構法と他の耐震工法の違い

優れた耐力・耐久性能により、将来への対策も万全

KES 構法は日本古来の神社仏閣の柱の考え方と同様に柱を基礎に直接緊結し、地震などの力を基礎に伝えて分散させるため、柱が抜けなくなります。一方、在来軸組工法では土台の上に柱が乗るため、大きな荷重がかかる場合には土台にめり込みや割れが発生する可能性があります、構造強度に大きな差が出ます。

